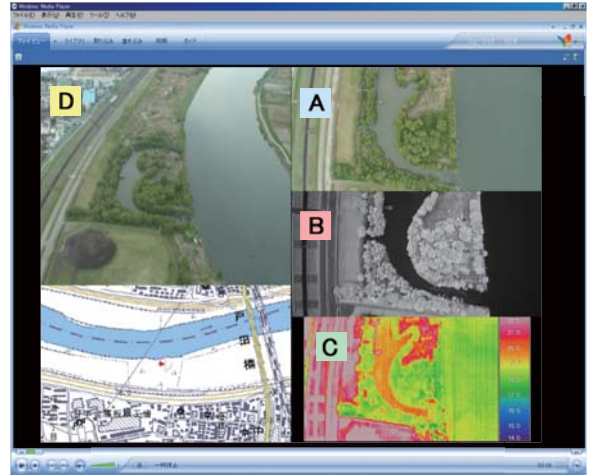
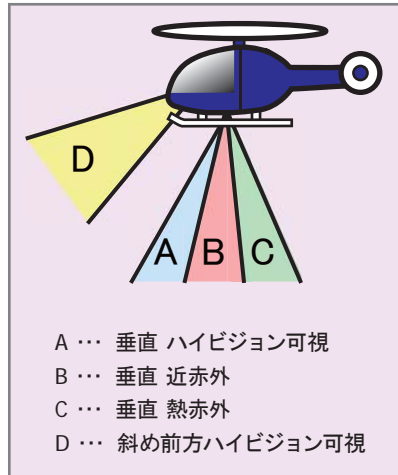


近年、各地の河川において河道内樹林化の問題が取り上げられています。樹林化の結果、水位のせき上げ・流下能力不足・河岸侵食等が治水上の問題となっています。また礫河原が減少するため、地域本来の生物が減少し、生態学的にも問題視されています。そこで河道内樹林化の現状を面的に把握する技術を紹介いたします。

「マルチスクリーン」

可視 + 熱赤外 + 近赤外の
垂直映像に加え、
前方斜め可視映像を
取得可能なカメラシステム
(特許出願中)



垂直 可視画像から

樹林分布図や樹高分布図が作成できます



② ステレオ写真測量(立体視)



① 樹林分布図の作成



③ 樹高分布図の作成

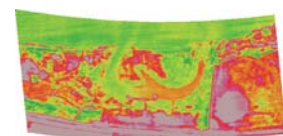
垂直 熱画像・近赤外画像から

- ・ 近赤外画像からは植生活性度の測定ができます。樹種・樹齢によっては違う値を示すため、特徴的な樹種を分類することも可能です。
- ・ 活性度の低下は蒸散機能の低下を招き、葉の温度が高くなります。これを捉えるには熱赤外画像が有効です。

⇒熱画像や近赤外画像から、更に詳しく樹林化問題を捉えることが可能です。



近赤外カラー



熱赤外

